

日中戦争の多角的分析

<日中戦争の多角的分析>

企画者：<慶應義塾大学> <段瑞聡>

<本文>

2015年は日中戦争、太平洋戦争終結70周年にあたり、中国と台湾などにおいては、日中戦争に関するシンポジウムが数多く開かれた。一方、日本の学界においては、日中戦争に関する大型シンポジウムが開催されなかったようである。しかし、日中関係の現状に目を向けてみると、歴史認識問題がいまだ日中関係の最大な阻害要因であると言っても過言ではない。その意味では、日中戦争の相対化がいつそう求められているといえる。

近年、アジア歴史資料センター、台湾の国史館、中央研究院近代史研究所档案館、およびアメリカ・スタンフォード大学フーバー研究所所蔵「蒋介石日記」など新しい資料の公開に伴い、日中戦争に関する新しい研究成果も現れつつある。

本分科会における3人の報告者は、いずれもフーバー研究所に1年以上滞在し、「蒋介石日記」を精読し、日中戦争史研究に取り組んでいる者である。ぜひこれを機会に日頃の研究成果を報告させていただき、会員の皆様のご意見・ご批判をいただければと願っている次第である。

なお、分科会の具体的構成は下記のとおりである。

報告1 鹿錫俊（大東文化大学）「中国における日中戦争のとらえ方——大陸と台湾の歴史展示の比較を踏まえて」

報告2 岩谷将（北海道大学）「盧溝橋事件再論」

報告3 段瑞聡（慶應義塾大学）「蒋介石の革命理念と日中戦争」

司会者・討論者 家近亮子（敬愛大学）